

Press Release

2020年10月12日
日本公認会計士協会

第41回日本公認会計士協会研究大会開催について

日本公認会計士協会は、2020年9月11日に第41回研究大会をオンラインにて開催いたしました。

2020年度は札幌にて研究大会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症への予防に配慮し、研究大会が始まって以来初めて会員が自宅等から参加できるオンライン形式による開催としました。

1979年に始まった研究大会は、会員である公認会計士が全国から参集し、会員、外部有識者、実務家等の研究成果等を拝聴し、かつ地域社会との交流を深め、知識の吸収や資質の向上に努め、そして地域貢献の場とすることを目的として毎年開催しているものです。

今回のメインテーマは、「いま、挑戦の時～新技術を駆使し、多方面で活躍する公認会計士を目指して～」とし、様々な側面において環境が激変する中、新技術に対して理解を深めつつそれを活用する方法を学び考える機会としました。

午前の部では、当協会手塚会長のプレゼンテーション、IFAC(国際会計士連盟)のIn-Ki Joo 会長からのビデオメッセージに続いて、記念講演を開催し、矢野剛史氏(経済産業省製造産業局 ものづくり政策審議室長)から「製造業は不確実性の時代をどう生きるか?—これから求められる「企業変革力(ダイナミック・ケイパビリティ)」とデジタル・トランスフォーメーション—」をテーマにご講演いただきました。そして、午後の部では、応募作品の中から選定された、監査・会計・税務・倫理・ITの多岐の分野にわたる8テーマの研究成果が発表されました。研究大会後は、オンラインエクスカージョンとして会員による音楽演奏を配信するミュージックチャンネルも行いました。本年の参加会員数は、トータルで約1,600名となり、例年の大会を上回る会員の参加を得ました。

当日は映像・音声の配信が思うよういかない場面も多々あり、大人数におけるオンライン配信の難しさを感じたものの、全国各地さらには海外にて業務を行っている会員が、どこにいても気軽に参加できるオンラインイベントの有意性もあらためて認識した大会となりました。今後も工夫を重ね、より良い研究大会を実現して参る所存です。



以上